

「 確かな学力の定着・向上を目指した授業改善の工夫 」
～ 学びの質的向上を目指して ～

I 研究の内容

1 本年度の研究の重点

これまでの4年間で「確かな学力の定着と向上」を基本テーマとし、とくに学力向上のために「やまなしスタンダード」をベースとした構造的な授業づくりについて研究を行い成果を挙げてきた。

そして今年度は、自主学習や單元ごとのふりかえりなどの学習活動を通して、生徒の疑問やつまづきをみとり、教師が授業にどう生かしていくのか、また生徒がどう学ぶのか（学び方）を有機的に結びつけていくことで授業改善に努めた。教わってわかる事や繰り返しやって身につく事、そして調べることで理解が深まる事など、幅広い学びにより生徒は変容していく。生徒の変容と教師の変容の相乗効果により、知的好奇心をのばす授業づくりやわかる授業づくりにつなげた。確かな学力の定着・向上を図るために、授業改善の工夫について研究をすすめ、今後も生徒の学びの質的向上を目指していく。

2 研究部会

(1) 教科別研究会

・「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくり・授業改善

(2) 学年別研究会

- ・Q-U検査の分析→個への対応、集団づくり
- ・学びの質的向上を目指した学級・学年集団づくり
- ・GUノート（自主学習ノート）の取り組みから、授業改善の工夫につなげる

(3) 本校の初任者による授業研究

全教職員が同じ視点で授業を観察するために、次の2つについて、事前に示した。

ア 「やまなしスタンダード」授業づくりの7つの視点(①～⑦)から、本時は特に何を意識した授業なのか。

イ 「主体的な学び、対話的な学び、深い学び」の中から、本時は特に何を意識した授業なのか。

◇社会 1年3組 11月18日(水)実施

単元名 第3章 世界の諸地域 5節 南アメリカ州

授業者 中澤杏樹 教諭

ア 視点②話し合い、討論、発表などの言語活動を効果的に取り入れる。

視点⑤活用・探求など、学んだことを別の場面で使うようにしている。

◇道徳 1年3組 1月25日(月)実施

教材名 「マンションの椅子～熊本地震の中で見つけたもの～」

授業者 中澤杏樹 教諭

ア 視点②話し合い，討論，発表などの言語活動を効果的に取り入れる。

イ 対話的な学び

授業後の研究会はワークショップ方式(付箋紙法)を採用し，全員参加型の研究会を展開している。小グループで可視化しながら，活発な意見交換をすることで，教職員が主体的に研究を進めることができる。

(4) 学習会

- ・観点別学習状況の評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に関する学習会 11月18日(水)実施
- ・Q-Uの分析による集団づくりに関する学習会
12月16日(水)実施

II 成果と課題

1 成果

- ・「やまなしスタンダード」を意識した初任者による授業研究を通して，教職員全員で学ぶ機会となり，授業の質の向上を図ることができた。
- ・「やまなしスタンダード」および新学習指導要領による，観点別学習状況の評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」に関する学習会を通して，授業づくりの視点や評価方法などについて理解を深めることができた。
- ・校内研究推進委員会を開き，家庭学習の取り組み方法について検討し，帰りの会の前にR.G(1日の学習振り返りと家庭学習の予定を立てる)の時間を設け，全校統一で取り組みを行った。
- ・家庭の協力を得ながら，「家庭学習チェック表」にも取り組んだ。「家庭学習チェック表」が生徒や保護者の家庭学習に対する意識付けの一助となった。

2 課題

- ・高い意識をもって「やまなしスタンダード」を取り入れた授業づくりに取り組んでいるが，今後，授業の質の向上をさらに図っていく必要がある。
- ・新しい生活様式に沿った「対話的な学び」について工夫していく。
- ・新学習指導要領全面実施による学習評価についての学習を深める。
- ・全校統一型の家庭学習の取り組み方法を考えることができた。その取り組み方法が実際に機能するかどうかの検証を来年度行う。

III 成果物

- ・学習指導案(1年社会・1年道徳)
- ・家庭学習チェック表

(研究主任 石井美保)